

# 子どもたちの明日

## Children, Our Future

2023年3月

136号

### 目次

- ・ 学習会から得られた自主運営への手応え 1頁
- ・ 幼稚園ができた村のマカラ 3頁
- ・ 国内事業・CYR 情報 4頁

## 学習会から得られた自主運営への手応え

今年新たに始まった村の幼稚園運営委員会の研修では、9月に地域幼稚園への訪問学習会を開きました。訪問先はクドール幼稚園です。村の幼稚園の運営委員会から3名ずつ参加しました。この地域幼稚園は、トエクボ郡の小学校に1998年に併設され3クラスあり、今の校長先生が赴任して幼稚園運営委員会を立ち上げたのは、2016年のことでした。

この研修会に参加したトクホウト村のソムタイさんに学習会やその後の取り組みについて話を伺いました。トクホウト村の幼稚園は2019年に開園し3年間の支援の後、2022年10月から自主運営を始めています。

### ソムタイさんからの報告

クドール地域幼稚園では、園舎の外やクラスの中の状況や備品、教材、子どもたちの活動などを観察しました。参加者は口々に、園庭やクラスにゴミが全くなく教室も整理整頓されてとても清潔で綺麗な環境だと話していました。燃やすゴミ、プラスチック、リサイクルするゴミに分別されていました。校庭にある軽



子どもの貯金の目的と方法を聞く参加者

食やお菓子の売店でも自分たちでゴミを片付けています。ゴミを捨てようとする子どもがいるとすぐに先生が声をかけていました。

そのあと、校長先生からスライドでの説明がありました。この地域幼稚園には二つの運営委員会があり、一つは問題解決の力のある地区長、村長、校長、警察主任、僧侶などからなる学校運営委員会、もう一つは親がメンバーになるクラス運営委員会です。学校運営委員会のメンバーは選挙で選ばれ、役割と責任が、明確に規定されています。クラス運営委員会はクラスごとに設置され、各クラスの親がメンバーになって、1年間に25,000リエル（約845円）を集めています。

もう一つ、参加者がとても感心した取り組みがこどもの貯金です。

カンボジアでは、幼稚園や学校で子どもがパンやお菓子、飲み物などをかうように親から1,000リエル（35円）ほどのお金をもらいます。このお小遣いの中から子どもたちに貯金を奨励していま

す。100リエル200リエルのお金を子ども一人ひとりが毎日ペットボトルに貯めることにしたのです。毎日貯められない子どもは2、3日に1回でも貯めています。子どもたちの貯金を先生が学年末にまとめてそれぞれの親に手渡します。子どもが何のためにいくら貯めたいかを決めます。中には40,000リエルを目標に貯めて学校の制服を買った子もいます。ノートやボールペン、カバンなどを貯金で買えるので、親もとても喜んでいきますし子どもたちも楽しみに貯金します。

また、保育者は文字や数字を習う教材を作って子どもたちに宿題を出します。1年間の宿題をまとめて綴じた記録も親に渡され、親は子どもが習ったことを知ることができ、子どもとの会話も増え、保育者は親からの協力も得やすくなっています。

保育者の説明からは、クラスに飾る教材を新しく作ったり教育省のガイドラインに沿った学びのコーナーが作られていたり、整頓されている教材から日頃の



認定NPO法人  
幼い難民を考える会  
CYR CARING FOR YOUNG REFUGEES



遊び場に設置された手洗い場

働きぶりがうかがえました。

参加者は、運営委員会のメンバーの関わり方も感銘を受けました。それぞれが幼稚園の運営、特に保護者や地域の人たちの協力をいかに得られるかを様々に考えて実践しており、メンバーが協力を呼び掛けるだけでなく自ら寄付するなど努力し運営に深く関わっています。

学習会から持ち帰ったもの

ソムタイさんは、「トクホウト幼稚園でも実践したいと考えたのは、まず第一に、クラス運営委員会を作ること。10月から始まる自主運営で、運営委員会の仕事を保護者や地域の人たちにわかってもらい、持続可能な幼稚園運営をしていきたいと思ったからです。第二に、子どもの貯金です。子どものときから欲しいものを買うために貯金し、それを買うようになれば、大人になっても無駄遣いしないようになります。それから私の関心は、どのように運営委員会の仕事の質を高めて運営資金の透明度を地域の人たちに理解してもらえるようにするかという点です。

他のメンバーとも話し合い、すぐに保護者会を開いて、6学年までクラス運営委員会を設置することを決め、先生でなく親が責任を持ってお金

を集めることにしました。難しかったのは、おやつ代の協力への理解を得ることでした。最初の保護者会では、子ども1人あたり20,000リエル（約675円）を毎月集めるよう話し合いましたが保護者の半分しか同意を得られませんでした。保護者からもっと親全員に詳しく知らせてほしいとの要請があり、その後も月20,000リエルで子どもの健康を考えておやつを出すことが話し合われました。そして協力を払っていない保護者のリストを運営委員会、郡や州の幼児教育担当者に報告すると、担当者は保護者会で子どもの成長にとって幼稚園の大切さや親の協力の必要性を話し、保護者を激励したり地区長にも相談したりしました。更に10月から11月、12月、1月と運営委員会メンバーと地区長が特に協力の難しい親の家を1軒ずつ訪ねて毎月の協力を説得しました。現在は保護者全員が参加しています。」

幼稚園運営への意気込み

「これからは、クラス運営委員会を毎年クラスごとに新しく作り、今年始めた保護者学習会も幼稚園運営委員会の仕事として続けていきたいです。学習会でも保護者との話し合いを重ねてきたので、幼稚園の仕事や関わり方への親の理解も得やすくなってきたよ

うに思います。」

ソムタイさんは続けて、自主運営への思いを話しました。

「幼稚園の移行式のとき、CYKのスレイさんから運営委員会に幼稚園の運営を続けていけますかと確認されたときに、できますと答えたものの心配でした。

自主運営に移行して新しく登録する子どものカップ30個を買い取るので、1人1カップのお金2,500リエル（約85円）を協力してほしいと頼んだとき、ほとんどの保護者が3,500リエル（約118円）を出してくれたので新しいカップ50個を買うことができました。そして新学期を前に、子どもの椅子と手拭きが少し足りないとわかったとき、校長と地区長がそれぞれ10脚ずつ個人のお金で寄贈し親も協力してくれたのでした。そのときの地区長や小学校長、保護者の対応や親の協力を取り付ける関係者の努力と強い意気込みを私も経験しました。ですから、私は幼稚園運営委員会のメンバーとして保護者や地域の人たちの協力を得ながら、トクホウト幼稚園をこれからも持続可能な幼稚園として続けていくことに、今では自信と確信が持てるようになりました。」



両親と兄と家の前で

## 幼稚園ができた村のマカラ

マカラの楽しみ

僕の名前はマカラ4歳。4人のお兄ちゃんと2人のお姉ちゃん、おばあちゃんの10人家族です。お父さんとお母さんは畑仕事や魚とりをしています。好きな食べ物は揚げた魚とごはん。時々野菜炒めやスープ。洗濯やおばあちゃんが作る魚の燻製を集める手伝いをします。魚とりや蓮の畑の仕事も手伝います。大きな魚が取れたとき洋服を買ってもらったときはとてもうれしい。

幼稚園の先生は優しく家に帰るときには丁寧にその日勉強したことを教えてくれ、僕のことにも気にかけてくれています。文字や挨拶の仕方も教えてくれます。幼稚園に行くときはチョムリアップリア、家に帰るときはチョムリアップスアと親に言うように教わりました。友だちがたくさんできて休み時間に友だちと滑り台で遊ぶのが大好き。家では、お兄ちゃんや近所の友だちとミニチュアのシャベルカーを僕が運転して土を掘ったり木の葉のお金をもらったりする遊びが一番楽しいです。

幼稚園での様子

ベアムボベッチ村の幼稚園のヴァンディ先生の話です。「マカラが幼稚園に来た頃は無口で恥ずかしがり屋でした。友だちと喧嘩をすることもなく、からだは小さいですが、先生や友達の言うことをよく聞いて自分のすることに自信を持っています。綺麗に洗濯したシャツを着て幼稚園に来ます。川岸に建っているマカラの家から3キロほどある幼稚園までの川沿いの道を、お母さんが自転車に乗せて送ってきます。両親が忙しいときには送って来られないので、時々休むことがあります。洪水の季節にはボートでくるのでとても心配です。」

お母さんの話

「夫と長年タイや他の州に出稼ぎに行って子どもたちは母親に預けていました。知らない土地でのキャッサバをカットして植える仕事やゴムのプランテーションで木から樹液をとる仕事は、とても大変でした。疲れて子どもたちのことがいつも気になり、早く故郷に帰りたいと思っていました。

長男は今20歳で18歳のときに結婚しました。次男は18歳、結婚したばかりで2人はバタンバン州で米やキャッサバづくり、トウモロコシを収穫して暮らしています。毎日かかる往復のフェリー代を払えず、2人とも

高校に行かせられませんでした。中学を出てすぐに建設労働や近所の畑の仕事を手伝ったり魚を取ったりしていました。17歳の長女はコンポンチュナン市で仲間と部屋を借りて縫製工場で洋服を縫う仕事をして月に170ドルもらっています。次女は15歳ですが、小学校6年生で留年したので、まだ中学1年です。コロナ感染症の予防のため学校は長い間休校していて、スマートフォンがなかったのでオンラインで先生の話も聞けず出席日数が足りなくなり、学年末の試験も落ちました。12歳と9歳の息子は小学校の6年と4年です。

7人目のマカラが生まれたとき私たちは出稼ぎに行くのをやめました。おじいさんが家を建てる土地を貸してくれ、いところから田んぼを借りて去年はお米を育て、5,000~6,000キロの収穫がありました。1キロ700リエル（約24円）で売りましたが、脱穀する機械のガソリン代や肥料代を払わなければならず、手元に残るお金はそれほど多くありませんでした。今年は蓮を植えました。小さい土地だったので儲けはありません。一番収入が多いのは魚を取って売ることです。1日2万リエル（約675円）になります。燻製にして売っています。



燻製にした魚を並べる手伝い

毎日疲れて仕事から戻ってもマカラと話すだけで1日の疲れがとれます。7人の子どものうちで幼稚園に行けたのはマカラだけです。その前は村に幼稚園がありませんでした。マカラは人の話を理解するのがとても早い。4番目の兄のシメンは文字の読み書きは同

じょうにできますが、人が話していることの意味を理解するのが遅いです。マカラは幼稚園に行くようになってからよく話をするようになりました。歌やクメール語など、習ったことをいつも話してくれます。幼稚園でいろいろなことを覚え、前より物怖じせず近所

の年寄りや警察の人に挨拶したり話をしています。息子にはやりたいこと、夢を実現させてほしい。警察官になりたいと言っていますが、どんな大人になるかとても楽しみです

## 2022年4月～12月 国内事業

【東京事務所や会員・ボランティアによる広報・募金活動】

6月 「世界難民の日」講演会

清泉女子大学地球市民学科「グループプロジェクト」

日本女子大学「国際協力・ボランティア論」①

7月 浦和友の会活動報告

第57回社会貢献賞受賞

8月 アジア生協協力基金公開活動報告会

9月 大学生ボランティア2名による広報活動支援

10月 CYRバザーグループ みなと区民まつり出店

11月 会員ピアノコンサートでの募金

12月 聖心女子大学チャリティ・コンサートでの募金

東京ボランティア市民活動センター「秋のリモボラ」

日本女子大学「国際協力・ボランティア論」②

その他、カレンダー製作販売、藍染カフェ（深谷市）とサクラモヒラ（大宮市）での織物委託販売

## CYR 情報

第22回定時総会のお知らせ

日時：2023年5月27日（土）午後5時より

臨場（東京事務所）とオンラインの併用で開催します。詳細は4月下旬に郵送する総会招集のご案内をご覧ください。

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227

三菱UFJ銀行 六本木支店（普通）1351747

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

幼い難民を考える会（CYR）は認定NPO法人です。  
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

子どもたちの明日 136号

発行日：2023年3月31日 発行者：藤川 祥子

ブノンペン事務所（CYK）

Borey Piphub Thmey Chhouk Va III, #55, St.95, Prey Sala Village, Sangkat Kakab, Khan Posen Chey, Phnom Penh, Cambodia

TEL: (+855) 23 882 972 FAX: (+855) 23 882 971

Email: info@cyk.org.kh

URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所（CYR）

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3B

TEL: 03-6803-2015

FAX: 03-6803-2016

Email: info@cyr.or.jp

URL: <https://www.cyr.or.jp/>